

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名：スマートグリッドの社会実装化を見据えたエネルギー消費の
デマンド・レスポンスの行動経済学的研究
2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加機関終了時点）：
研究代表者
依田 高典（京都大学大学院 経済学研究科 教授）
主たる共同研究者
中村 慎（株式会社竹中工務店 環境エンジニアリング本部 グループ長）
3. 事後評価結果

○評点

A 期待通りの成果が得られている

○総合評価コメント

ビルエネルギー管理システム（BEMS：Building Energy Management System）の自動デマンドレスポンス（ADR：Automated Demand Response）では、省エネ参加率が向上する条件について実際のオフィスを使って実データを用いた検証を行った。また、住宅エネルギー管理システム（HEMS：Home Energy Management System）のADR実装化サーベイでは、HEMS非保有世帯がADR対応機器の導入を嗜好する条件検討をWEB調査で実施した。今後、更に規模を増やして行っているコンジョイント調査の結果も合わせ、HEMS所有世帯に高度選好の手法を用いたHEMS社会実装化実験を東急田園都市で実施しており、今回の成果のさらなる推進に期待ができる。また、他の複数チームとの連携を行い、経済学の立場から工学分野の研究者との有機的な展開を図ったことも評価できる。今後は、行動経済学の強みをさらに前面に打ち出し、工学系の研究者と連携しながらADRの社会実装の道筋を提示して欲しい。